

経営理念：利用者の『最善の利益』を図り、地域の福祉に貢献する

保育の 1. 子どもの人格・人権を尊重し、一人ひとりの思いを大切にします 2. 子どもの発達に即した援助・保育をします

方針 3. 子どもが安心して過ごせる生活の場にします

保育目標 ◆じょうぶな身体（健康）◆たしかな考え（理性・認識）◆ゆたかな心（感性・情緒）◆よき仲間（協調性・社会性）

園だより

2023. 7. 4 文責:榎並 理恵

自己肯定感を育む ～子どものあいのままの姿～

先週より豪雨がが続いています。今年は長梅雨になりそうで梅雨明けが待ち遠しいですね。7月は雨雲からお日様に季節の主役が交代していきます。子ども達にも天気の状態、空の変化、海の日も迎えますので海の生き物を調べたり観察したりして気付きを大事にしていきたいです。気温湿度ともにぐんぐん上がり暑さのピークを迎えていきます。子ども達の汗対策、熱中症対策を始め細目な水分補給をしながら健康管理に十分気を付けていきたいと思ひます。

水遊びも始まり、泥団子作り、泥遊びも子ども達の大好きな遊びの一つです。夏ならではの遊びを満喫していきたいと思ひています。保護者の皆様には洗濯物が増えて手間を掛けますがご理解、ご協力の程、よろしくお願い致します。

今月は子どものあいのままの姿について考えてみました。自己肯定感という言葉に耳にしたことありませんか？自己肯定感とは「自分はここに存在していいんだ」と思える事。自己肯定感が豊かに育まれていると自分が出来ないことがあっても出来ない自分も自分なんだと受け入れる事が出来ます。「出来る出来ない」の価値判断で良し悪しを教えるのではなく「出来てもよいし、出来なくてもよい、それがあなた」という感覚で育っていく事が大きくなって人に優しく思いやりのある子に育っていくのではないかと思ひます。だからこそ、私達大人は今の子どものあいのままを受け入れて子どもを安心させてあげたいです。子どものあいのままを受け入れるといても全てを受け入れる事は難しいです。困った時に一緒に悩んで一緒に考え「一緒にいるよ。あなたをしっかりと見ているよ。」という気持ちを持つ事が子どもの自己肯定感に繋がっていきます。

私達大人はついつい結果だけを見て声掛けをしがちです。その結果に至るまでの過程、出来た出来ないではなく出来るようになるまでの過程が大切です。雲梯や登り棒、鉄棒と子ども達は手にマメを作りながらやり切ります。時には悔し涙を流し、葛藤しながらやっています。マメを作ってもやり切ろうとする意欲、向上心の姿が大切です。

子どもの素敵どころ、子どもの伸ばしてほしいところ、子どもの苦手なところも全部、大好きと思える私達でありたいです。毎日忙しいお父さん、お母さんですが子ども達へのぎゅうをよろしくお願い致します。

また、自己肯定感については、来月お知らせしたいと思ひます。

❀詩を紹介しします❀



たまには のんびり

心も 体も

ゆるめてみよう

花が咲くのは

ぎゅっと締めていたのを 緩めた時だから